

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	13	心豊かな生活を送ることができる				関係課	文化・スポーツ振興課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
1	市民の文化芸術の振興	4	1	安全で快適な施設提供	B	計画的な施設の修繕等 ユニバーサルデザインを意識した施設運営						<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の修繕を計画的に実施した。</li> <li>令和4年度に予定している、全館を対象とした中長期保全計画策定業務委託実施のための準備を進めた。</li> </ul>		
			KSF			タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
			KSF			公共施設マネジメント個別計画の策定・運用	なし	策定準備						
			KSF			支援をした件数	2件（R1）	5件（R3）					2件以上（R7）	
KPI	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
	文化芸術活動環境に対する満足度			39.0%（R2）	45.1%（R3）					50.0%（R7）				
<b>課題及び次年度の方向性</b>														
<ul style="list-style-type: none"> <li>キラリふじみの施設整備については、引き続き計画的に取り組む。</li> <li>文化芸術によるまちづくり補助金が継続的に利用されるよう、さらなる制度周知に取り組む。</li> <li>文化芸術・スポーツ大会等出場奨励金制度は、文化芸術分野については問い合わせはあったが利用にはつながらなかった。さらなる周知に取り組む必要がある。</li> </ul>														

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	13	心豊かな生活を送ることができる				関係課	文化・スポーツ振興課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
2	キラリ☆ふじみを中心とした文化芸術の振興	2	1	鑑賞機会の充実	B	キラリ☆ふじみによる文化創造事業の推進（鑑賞） 舞台芸術鑑賞会の実施 無料コンサートの実施 文化祭の開催						新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業も多いが、感染症対策を徹底したうえで文化芸術によるまちづくり補助金を活用した新たな事業を実施することで、鑑賞機会の充実を図り、文化芸術によるまちづくりを推進した。		
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
				鑑賞会等の参加者数		32,449人 (R1)	2,165人 (R2)						現状より拡大 (R7)	
			2	参加・発表機会の充実	B	キラリ☆ふじみによる文化創造事業の推進（参加） 子ども文化芸術大学☆ふじみの開校 文化祭の開催（再掲）						新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業も多いが、感染症対策を徹底したうえで文化芸術によるまちづくり補助金を活用した新たな事業を実施することで、参加・発表機会の充実を図り、文化芸術によるまちづくりを推進した。		
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
	参加者数		31,153人 (R1)	2,769人 (R2)						現状より拡大 (R7)				
KPI	文化芸術事業に対する満足度	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
				33.3% (R2)	36.7%(R3)					50.0% (R7)				
<b>課題及び次年度の方向性</b>														
<p>・令和3年度市民意識調査において「市民文化の創造」についての満足度は上がっていることから、新型コロナウイルス感染症の影響下においてもキラリ☆ふじみ中心とした文化芸術振興の取組みは一定程度評価されていると考えられる。</p> <p>・一方で、同調査項目の不満な理由は「日常生活の中で誰でも文化芸術に親しむことができる機会づくりが不十分」との回答が45.9%と最多であり、次いで「市民文化会館キラリ☆ふじみにおける文化芸術の鑑賞機会、参加・発表機会、情報提供が不十分」との回答が28.4%である。</p> <p>・引き続き、日常生活の中で文化芸術に触れる機会の充実やSNS等も活用した情報発信の充実に取り組む必要がある。</p>														

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	13	心豊かな生活を送ることができる				関係課	文化・スポーツ振興課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
3	文化芸術によるまちづくり	3	1	日常生活の中での文化芸術の推進	B	生活に身近な場所でのコンサート等の実施 まちなかを活用したアート空間の創出						新型コロナウイルス感染症の影響により生活に身近な場所やまちなかを活用した事業に多くの制約があるため多くの文化芸術事業が中止となる中でも、文化芸術によるまちづくり補助金を活用した事業等が駅や公共施設で行われるなど、文化芸術によるまちづくりを推進した。		
				タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
				KSF	文化芸術アクションプラン事業数	56事業 (R1)	32事業 (R2)				維持			
				タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
KPI	「豊かな生活が送れている」と回答した割合			40.0% (R2)	43.7%(R3)						50.0% (R7)			
<b>課題及び次年度の方向性</b>														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が見込まれるため、感染症対策の徹底及び事業実施方法の工夫により、可能な限り事業を実施していく。</li> <li>・市制施行50周年記念事業として計画されている文化芸術事業を実施することで、文化芸術によるまちづくりをさらに推進していく。</li> </ul>														

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	14	地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる				関係課	資料館		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）			
1	文化財の保存	3	1	埋蔵文化財に関する適切な対応・指導・周知	B	埋蔵文化財の照会・手続き体制の充実 埋蔵文化財の周知の強化 関係部署との連携					埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に対し、例年同様に照会を実施し、文化財保護法に基づき指導を行った。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	年間の発掘調査件数		35件 (R1)	33件 (R3)					35件 (R6)		
			2	文化財の保存体制の拡充	B	資料保管施設の整備					今年度資料の整理・保管施設の整備について方向性を検討した。今後、関係各課と調整し、内容の研究・精査が必要となる。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	保管施設の集約化		3か所 (R1)	3か所 (R3)					1か所 (R7)		
			3	文化財の散逸防止	B	指定文化財候補の検討と指定の拡充 歴史・民俗資料の収集と保管					今年度指定文化財候補への登録を新たに3件実施。貴重な文化財資料の保存と、市民への文化財周知を目的とした指定文化財拡充について、次年度以降に向けた準備を行った。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	発掘調査成果を記した文化財報告書の刊行		1冊 (R1)	1冊 (R3)					1冊 (R7)		
			4	資料の適切な保存	B	劣化の著しい資料の保存処理の実施 歴史・民俗資料の収集と保管					遺跡から出土した資料のうち、劣化の著しい鉄製品の保存処理を3点実施し、また、資料館において民俗資料の収集及び土器の修復を行い、市民等の学習活動に活用できる資料にすることでできた。			
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
KSF	特殊な資料の劣化防止処理を行った件数		0件 (R1)	3件 (R2)					5件 (R7)					
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	市指定文化財の件数		33件 (R1)	33件 (R3)					36件 (R7)					
課題及び次年度の方向性														
中規模及び大規模の埋蔵文化財発掘調査の増加傾向が続いているため、埋蔵文化財整理・保管施設の収容容量が限界に達している。また、施設も長年の経過により劣化が顕著にみられるため、施設整備の検討が急務となる。														

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	14	地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる				関係課	資料館	
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）		
2	郷土芸能・伝統工芸の継承	3	1	郷土芸能の継承活動の支援	B	郷土芸能カレンダーの作成・配布 HPを利用した音源や動画の提供 財政的な支援					文化財指定された郷土芸能の保存団体に対して、補助金を交付した。また、郷土芸能の情報提供に向けた動画等の記録映像の収集・精査を実施した。コロナ禍で郷土芸能等を目にする機会が少なくなっている現状では、動画等の配信により周知・PRとして、また後世へ残す記録資料としても効果が見込まれる。		
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
			KSF	市指定文化財の郷土芸能保存団体の活動件数		37件 (R1)	7件 (R2)					37件 (R7)	
			2	地域の伝統工芸の継承活動の支援	B	伝統工芸の継承活動の支援 伝統工芸の周知					座敷箒や竹かごの製作技術を伝承する市民団体の活動を支援した。「扇だこづくり講習会」を実施した。こうした持続的な支援により、後世への継承につながるが見込まれる。		
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
KSF	継承活動のための資料館利用回数		20回 (H30)	19回 (R2)					24回 (R7)				
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
KPI	「富士見市で魅力ある資源」のうち、郷土芸能の割合		1.6% (H30)	-					2.0% (R6)				
課題及び次年度の方向性													
新型コロナウイルス感染症の影響もあり、郷土芸能における保存団体の活動ができない状況にある。記録の作成や動画情報の提供等、様々な方法での継承活動の支援を検討していきたい。													

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	14	地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる				関係課	資料館	
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）		
3	文化財の活用	3	1	情報発信の強化	B	公共的施設を利用した発掘成果の発信 指定文化財マップの作成・配布 デジタル資料の活用					新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小したが、商業施設（ららぽーと富士見）を利用した展示（ほるとま展）を開催した。2日間で2,338人の来場者があり、一定の成果を上げることができた。また、水谷公民館における埋蔵文化財展示を実施し、公共施設を利用した文化財の発信に努めた。継続的な情報の発信により市民へのPRと周知、学習機会の提供へつながることが見込まれる。		
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
			KSF	年間の展示などの情報発信の企画件数		1件 (R1)	2件 (R3)					3件 (R7)	
			2	歴史公園・資料館施設の活用	B	歴史公園・資料館の維持管理、常設展示の充実と企画展示の開催 講座等の学習型主催・共催事業の実施 参加・体験型主催・共催事業の実施 施設を活かしたイベント型主催・共催事業の実施 学校教育との連携、市民学芸員や友の会等の市民との協働					新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「難波田城公園まつり」や「水子貝塚星空シアター」などの大規模イベントは中止とした。その他のイベントは、参加者数の制限や事前申込制とするなど、十分な感染対策を講じた上で実施した。学習機会の提供、市内外へのPR、魅力発信につながるが見込まれる。		
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
KSF	主催・共催事業実施数		38回 (H30)	32回 (R2)					210回（5年間の累積値）				
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
	資料館来館者数（水子貝塚資料館・難波田城資料館）		99,942人 (H30)	46,927人 (R2)					110,000人 (R7)				
課題及び次年度の方向性													
<p>コロナ禍での人流が抑制されていた状況下から、今後様々な機会・場所・方法での文化財の活用方法を検討していきたい。</p>													

計画	基本計画	分野	10	生涯学習	基本政策	15	自由な学びにより生きがいができる	関係課	交流センター、コミュニティセンター、公民館、資料館			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組			R3年度の成果及び効果（見込）			
1	自由に学べる学習環境の充実	3	1	ライフステージに合わせた学習機会の充実	B	子育て支援に関する学習機会の充実 家庭学習応援事業の実施、地域子ども教室への支援 子ども大学事業の充実、障がいのある若者の学習支援 まちづくり講座を活用した学習機会の充実、 インターネットを活用した学習機会の創出 など			新型コロナウイルス感染症の影響により多くの事業が中止となったが、感染拡大防止のために規模を縮小するなど工夫をしながら一部事業は実施できた。家庭学習応援事業については公民館利用が制限された中でも例年どおり7月から途切れることなく実施することができた。子ども大学事業は、例年講義を7回実施のところ3回に減らしたが募集定員を超える応募があった。また一部事業では、動画配信事業を開催したり、開催できた事業での満足度が99%のアンケート結果が出ているものもあり、市民の学びの意欲を感じることができた。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
			KSF	自分のライフステージに合った事業が行われていると感じる人の割合	14.7% (R2)	-					25% (R7)	
			2	学習情報の発信・相談体制の充実	B	ホームページ、広報紙による情報発信、SNSを活用した情報発信 チラシ・ポスターの掲出、生涯学習ガイドの発行 地域情報紙による情報発信、情報・資料収集と提供の充実 公共施設職員による相談体制の充実			公民館・交流センターにおいて、公民館だよりなど地域情報紙の発行や、ホームページやYouTube等のSNSでの施設案内、事業案内やサークル活動紹介など情報発信に努めた結果、利用者が前年度よりも増えた施設もあり、今まで以上に若者の目に留まる広報活動につなげることができた。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
KSF	生涯学習に関する情報が手に入りやすいと回答した人の割合	36.0% (R1)	-					40.0%(R7)				
3	推進体制の充実	B	実行委員会等への市民参画機会の充実 公民館運営審議会の運用、町会やまちづくり協議会などの連携の充実 生涯学習に関する市民参画機会の充実 庁内推進委員会による計画の進捗管理			新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった実行委員会もあるが、公民館運営審議会、まちづくり協議会への事務的支援、共催で地域問題に係る学習会を開催するなど、市民との連携に努めた。また、令和3年度より第3次生涯学習推進基本計画の計画期間がスタートし、市民と意見交換する場として生涯学習推進市民懇談会を開催した。コロナ禍での会議を実施する中で、コロナ禍でできること、制限のある中での活動や学びについてを話し合う良い機会となった。						
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
KSF	生涯学習推進市民懇談会の実施回数	2回(R1)	1回(R3)					2回(R7)				
KPI	学習活動支援に対する満足度	45.6%(H30)	-					50.0%(R7)				
課題及び次年度の方向性												
令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定どおりに事業を開催できなかった。公民館運営審議会においてICTを活用した公民館事業の推進等の方向性が示されるなど、今後、ウィズコロナを見据えた「新しい生活様式」のもとで実施可能な事業を企画・実施していくことが必要となる。												

計画	基本計画	分野	10	生涯学習	基本政策	15	自由な学びにより生きがいができる				関係課	交流センター、コミュニティセンター、公民館、資料館		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
2	地域資源を活かした生涯学習の推進	1	1	地域資源を活かした学習機会の提供	B	歴史・文化財・郷土芸能を活かした学習機会の充実 文化芸術を活かした学習機会充実、産業を活かした学習機会充実 高校や大学などの連携の推進、多様な人材を活かした学習機会の提供 地域の自然等を活かした学級講座等の開催 世代間交流になる学習機会の充実、地域団体との連携による学習機会支援						新型コロナウイルス感染症の影響により多くの事業が中止となったが、可能な限り歴史・文化財をはじめ、文化芸術、産業など地域資源を活かした学習機会を提供した。成果として公民館の文化芸術に関する事業や資料館の文化財に直に触れることのできる事業では、学習意欲の向上や定員を超える参加者があるなどの地域への関心を持たせる機会となった。		
			KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			地域の産業や資源、歴史や文化を活かした事業数	18事業(R1)	10事業(R2)					20事業(R7)				
			2	地域の人材を活かした学習機会の提供	C	市民人材バンク制度の充実 市民学芸員活動の充実 各種ボランティアに関する学習の推進 NPOや市民団体との連携の充実						市民人材バンク推進員の会が主催するモデル事業に対して事務的支援を行い、公民館やNPO等の関係事業においても人材バンクを通じた講師の依頼があったが、新型コロナウイルス感染症の影響で大半が中止となった。しかし一方で、ポスター掲示による広報活動や、施設利用者や地域住民によるコンサートやギャラリーへの作品展示等、コロナ禍でもできる学習機会提供の形を模索することができた。		
			KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			市民人材バンクの依頼件数	522件(R1)	20件(R2)					550件(R7)				
3	新たな人材の発掘	C	各種事業への参画機会の拡充						新型コロナウイルス感染症の影響により、各関係課での新たな人材発掘をターゲットにした事業展開が困難であった。一方で人材バンクへの登録した件数は、令和2年度の238件から令和3年度の248件と10件の増加となり、事業への参画を望む人材がいることが推測される。					
KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
地域の担い手育成を推進する事業数	23事業(H30)	7事業(R2)					25事業(R7)							
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	人材バンクを活用して「よかった」と回答した人の割合		89.0%(R1)	100%(R2) ※コロナ禍で件数が少数であったため					90.0%(R7)					
課題及び次年度の方向性														
令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定どおりに事業を開催できなかった。今後、ICTの推進など「新しい生活様式」のもとでの事業の実施方法の確立が必要となる。また、学習機会を充実させるため事業指導者や協力者の人材発掘については、事業の周知不足が課題と考えられ、今後SNS等を利用した発信を含め、手段の工夫を検討していきたい。														



計画	基本計画	分野	10	生涯学習	基本政策	15	自由な学びにより生きがいができる				関係課	交流センター、コミュニティセンター、公民館			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
3	生涯学習を通じたコミュニティの充実	2	1	学習成果の発表機会の充実	C	学習成果の発表機会の充実 市民の交流機会の創出 市民と地域との交流機会の創出						新型コロナウイルス感染症の影響により、文化祭や交流会、その他各種まつり等のイベントについては、ほとんどが中止となった。一部、作品展示等により開催できたものについては、生涯学習活動における日頃の成果の発表と相互交流を図ることができた。また、公民館でのYouTube配信などを利用することで、新たな情報・発表機会をの形を創出することができた。			
			KSF		文化祭等の参加人数	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
						21,000人 (H30)	0人 (R2)						22,000人 (R7)		
KPI	生涯学習を通じて「つながり」を感じている人の割合		2	学習成果の活用機会の創出	B	市民人材バンク制度の利用促進 学習者と地域をつなぐ支援の充実						市民人材バンク推進員の会が作成する利用者募集案内や広報紙の作成支援を行った。コロナ禍以前の水準までとはいかないが、徐々に利用件数が増えている。また、協働によるまちづくりを推進することを目的としたまちづくり講座においては、コロナ禍においても可能な限り開催した。			
			KSF		協働によるまちづくり講座の実施回数	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
						33回(R1)	7回 (R2)						35回(R7)		
タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
			29.2% (R2)	-					40.0% (R7)						
課題及び次年度の方向性															
令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定どおりに事業を開催できなかった。今後、ICTの推進など「新しい生活様式」のもとで事業の実施方法の確立が必要となる。															

計画	基本計画	分野	10	生涯学習	基本政策	15	自由な学びにより生きがいができる				関係課	交流センター、コミュニティセンター、公民館、資料館		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）			
4	生涯学習関連施設の充実	3	1	施設の整備・機能の充実	B	多様な学びを支援する施設機能の充実 快適な読書空間の提供 ユニバーサルデザインを意識した施設提供 公共施設マネジメントによる個別計画の策定と運用					新型コロナウイルス感染症の影響下において、施設の自動水栓化をするなどの感染症拡大防止対策を講じ、安心・安全な施設提供の充実に努めた。			
				タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
				KSF	各公民館・交流センター・コミュニティセンター・ピアザ ふじみ・図書館の利用者数	582,747人 (H30)	282,776人 (R2)					585,000人 (R7)		
				タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
KPI	生涯学習の活動できる環境に対する満足度			15.1% (R2)	-						25.0% (R7)			
<b>課題及び次年度の方向性</b>														
<p>生涯学習関連施設においては、富士見市公共施設個別施設計画に基づいて再編の方向性、対策内容、実施時期の見通しが計画されている。今後の市民ニーズに応えられるような公共サービスの提供を重視しながら関係課と協議していきます。またコロナ禍においては、「新しい生活様式」に対応した施設提供のための整備・充実に努めていく必要がある。</p>														

計画	基本計画	分野	11	人権・男女共同参画	基本政策	16	一人ひとりが尊重され、誰もがともに活躍できる				関係課	人権・市民相談課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）			
1	人権教育・啓発の推進	5	1	人権意識の向上	A	広報等による人権意識の啓発 人権啓発イベントの開催 人権啓発講座等の開催 性的マイノリティに関する理解促進					新型コロナウイルス感染症の影響がある中、オンラインでの研修開催、子どもを対象にした啓発事業を学校と連携して実施し、一部の事業後に行ったアンケートの結果から、人権意識の向上を図ることができたと考えている。			
			KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
				広報による啓発等の実施回数	1回/年 (R1)	4回/年					3回/年 (R7)			
KPI	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
	人権の大切さを認識している割合			94.0% (R1)	-					96.0% (R7)				
課題及び次年度の方向性														
今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続くとみられるため、啓発等の実施にあたっては、オンライン等の活用を含めた感染予防対策を行い、安全な実施に努めていく。														

計画	基本計画	分野	11	人権・男女共同参画	基本政策	16	一人ひとりが尊重され、誰もがともに活躍できる				関係課	人権・市民相談課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）			
2	男女共同参画の推進	3	1	男女共同参画意識の啓発	B	男女共同参画講演会・セミナー等の実施 広報、ホームページ等での情報発信 さまざまなハラスメント防止に向けた周知啓発 多様な性・多様な生き方への理解促進"					講演会・セミナーは新型コロナウイルスの影響により実施できなかったが、広報の男女共同参画ひろばにて年4回の記事掲載や、男女共同参画推進会議（市民ボランティア）にて学習会を2回実施するなどして継続的に啓発活動や多様な性についての職員研修を行うことで、男女共同参画意識が高まった。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	講演会・セミナー等の開催件数		3回（R元）	0回					継続（R7）		
			2	女性の社会進出の促進	B	審議会等への女性の参画促進 女性職員の管理職登用促進と活躍の場の拡大 女性関係団体への支援 女性の再就職・起業の支援					男女共同参画プラン（第4次）に基づき、「政治、職場、地域社会などあらゆる分野に男女が共同参画できる環境づくり」のための記事を広報掲載し、国や自治体の政策・方針決定過程への参画の重要性についての啓発を行うことで男女共同参画意識が高まった。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
KSF	市審議会における女性委員の割合		31.8% （R元）	31.6% （R3）					40.0% （R7）					
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	男女の地位が平等となっていると感じている市民の割合		22.3% （R1）	-					30.0% （R7）					
	課題及び次年度の方向性													
<p>・市民意識調査からも男女の地位の平等感が低いことから、引き続き男女共同参画意識の向上のための意識啓発を継続的に行う必要があると考える。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、集会形式の講演会やセミナーの企画及び実施はできなかったが、今後は感染拡大の状況を見て規模を縮小するなど、開催へ向けて検討をしていく。また、広報やホームページなどあらゆる媒体を活用し、男女共同参画に関する情報提供や啓発活動を継続的に行っていく。</p>														

計画	基本計画	分野	12	地域コミュニティ	基本政策	17	市民が主役のまちづくり				関係課	協働推進課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
1	町会運営への支援	3	1	コミュニティ力向上のための支援	B	加入促進の支援 正副町会長の負担軽減 町会運営マニュアルの作成 町会PRの支援						市ホームページにおいて、町会紹介ページを作成・配布し、加入推進及び町会PRを支援している。 また、町会長連合会と共同で町会運営マニュアルを作成、町会に配布している。結果として町会役員等にノウハウを伝えることができた。		
			タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
			KSF	加入促進策の実施			1 施策/年 (R1)	2 施策/年 (R2)					3 施策/年 (R7)	
			2	情報交換や集まれる場所の提供	B	市立集会所の修繕 掲示板の維持管理 地域立集会所への補助						情報交換や集まれる場所を維持管理するため、集会所の修繕を14件、掲示板の修繕を2件行った。 また、1か所の集会所の大規模修繕で、新たな住民ニーズに取り込んだ工事を実施し、加えて3か所の地域立集会所の光熱水費補助を行った。		
タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6		目標値					
KSF	集会所のあり方の検討				大規模修繕時に検討した									
KPI	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
	コミュニティ活動の推進に対する満足度			49.9% (H30)	-					53.0% (R7)				
<b>課題及び次年度の方向性</b>														
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、町会活動における、人が集まらなくてもできる会議の開催や、飲食を伴う集まりができず交流が図れないといった課題が出てきているため、新たな支援策を検討する。														

計画	基本計画	分野	12	地域コミュニティ	基本政策	17	市民が主役のまちづくり				関係課	協働推進課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
2	地域まちづくり協議会への支援	2	1	設立の支援	C	未設置地域への設立の働きかけ 地域データの整理						新型コロナウイルス感染症のまん延による緊急事態宣言の発令等により、まち協の活動も制限されていたこともあり、未設置地域への働きかけは実施できていない。		
			KSF			タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
			KSF			地域まちづくり協議会の数	6ヶ所 (R1)	6ヶ所 (R2)					11ヶ所 (R7)	
			KSF			協議会同士の交流の継続		継続 (予定)						
			2	活性化支援	B	協議会同士の交流促進 事業取り組みへの助言・支援						協議会同士が情報交換等を行うことにより、協議会活動が再開に向けて活性化された。		
KSF			タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
KSF			協議会同士の交流の継続											
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	「住みよい」理由の「まちに愛着がある」の割合		23.3% (H30)	-					30.0% (R7)					
課題及び次年度の方向性														
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、人が集めて活動できないという課題が出てきているため、新たな支援策を検討する。														

計画	基本計画	分野	12	地域コミュニティ	基本政策	17	市民が主役のまちづくり				関係課	協働推進課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
3	協働によるまちづくり	2	1	新たな枠組みでの地域課題への取組	C	協働事業提案制度の運用等の見直し アイデア提案制度の活用を検討 行政提案制度のあり方の見直し						協働事業提案制度の改正に向けて審議会及び庁内委員会で協議を実施し、庁内で検討中。（審議会及び庁内委員会 各1回開催）		
			KSF		協働提案制度への応募数	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
						4件/年 (H30)	0件/年 (R3)					5件/年 (R7)		
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	市民参加・協働の推進に対する満足度		42.3% (H30)	-					56.0% (R7)					
	<b>課題及び次年度の方向性</b>													
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業提案制度の見直しを早期に完了することで、地域課題を解決しやすくする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となっていた事業を通常開催することで、市民団体との協働事業を増やす。</li> </ul>													

計画	基本計画	分野	13	多文化共生・国際交流	基本政策	18	外国籍市民と地域住民がつながりを持つことができる				関係課	文化・スポーツ振興課、人権・市民相談課			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
1	外国籍市民への支援	3	1	相談体制の充実	B	外国籍市民相談の実施 NPO等との協力体制の強化						・相談を継続して実施 ・年度内にオンライン相談を開始することで、相談の機会を増やした。			
			KSF	相談所開設回数	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
					99回 (R1)	98回 (R2)						継続実施 (R7)			
			2	多言語での情報発信	B	多言語によるHPでの情報発信 事業案内等の多言語併記促進 案内表示等の多言語化 翻訳協力者の育成と活用						広報富士見の10か国語による多言語配信やふじみの国際交流センターへの6か国語によるホームページ翻訳掲載等を行っている。分かりやすい行政・生活情報を提供することで外国籍市民の暮らしを支援する。			
			KSF	多言語併記・表記された案内等の数	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
		46件 (R2)	51件 (R3)						51件 (R7)						
3	コミュニケーションの支援	B	日本語学習機会の提供 日本語学習支援者の育成と活用 翻訳機を使った窓口対応						当地域で活動するNPO法人ふじみの国際交流センターや富士見日本語教室、こども日本語学習クラブが行っている多言語情報、日本語学習支援に対し、会場の確保や研修会や会議開催の情報の提供等の支援を行っている。外国籍市民が日本語を学ぶことで日常のコミュニケーション力が向上する。						
KSF	日本語学習の場の提供	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値							
		0回 (R1)	-						6回 (R7)						
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
	暮らしやすいと感じる外国籍市民の割合		-	-					75.0% (R7)						
課題及び次年度の方向性															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室はボランティアの団体や個人に負う部分が多く運営基盤が脆弱であること。</li> <li>・ふじみの国際交流センターにホームページの翻訳依頼している対象言語を7カ国（ベトナム語の追加）とする準備を進める。</li> <li>・日本語学習支援を行う団体への支援や補助の拡充が必要である。</li> <li>・行政と日本語学習支援団体との役割分担を整理し、今後の事業の在り方・進め方を検討する。</li> </ul>															



計画	基本計画	分野	13	多文化共生・国際交流	基本政策	18	外国籍市民と地域住民がつながりを持つことができる				関係課	文化・スポーツ振興課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
2	市民の理解促進	2	1	多文化理解の促進	B	多文化理解を促す広報の充実 国際交流フォーラムの開催						国際交流イベントの多くは、富士見市国際友好協会が主体となって行っているが、その最大の催しで市・教育委員会・国際友好協会の3者が共催する国際交流フォーラムについては、今年度もコロナ禍により開催中止となった。また、多文化理解のための広報活動を、ポスターやホームページを通じて行った。外国籍市民との交流を通じて、地域での暮らしやすさ、多文化共生への理解を深めた。		
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	広報記事掲載数		0回（R元）	1回					2回（R7）		
			2	コミュニケーション支援	C	やさしい日本語によるHPでの情報発信 やさしい日本語講座の開催						外国籍市民に分かりやすい表現で情報発信することは非常に重要であり、今後定期的な情報発信・開催を行う必要がある。		
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
KSF	やさしい日本語講座等開催数		0回（R元）	0回					4回（R7）					
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	外国籍の人への理解が深まったと感じた割合		-	-					75.0%（R7）					
課題及び次年度の方向性														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算確保や研修会の開催に向けた関係課との協議・調整が必要である。</li> <li>・外国籍市民への情報発信手段の一つとしてやさしい日本語の活用を促進し、庁内での発行物への普及に努める。</li> </ul>														

計画	基本計画	分野	13	多文化共生・国際交流	基本政策	18	外国籍市民と地域住民がつながりを持つことができる				関係課	文化・スポーツ振興課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
3	国際交流の推進	4	1	交流機会の充実	B	多文化理解を促す広報の充実 国際交流フォーラムの開催 外国籍市民が地域に溶け込む機会の提供						今年度についても、コロナ禍により国際交流フォーラムやミニスポーツ交流大会などが中止となったが、コロナ禍が少し落ち着いた時期に代替イベントとして、国際友好協会が難波田城資料館において外国籍市民等30名余りが参加した古民家体験イベントを行い交流を深めることが出来た。		
			KSF	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
			国際交流フォーラムの参加人数			520人 (R元)	-						520人以上 (R7)	
			2	姉妹都市との交流	A	市民参加事業の充実 市民団体との連携						10月11日から23日まで姉妹都市記念日シャバツ市関連展示を開催した。また、今年度行われた東京2020大会のレガシーとして開催したセルビア共和国関連事業として、セルビア語講座、料理講座、出前講座等を計12回開催し、セルビア共和国及びシャバツ市への理解を深めた。		
KSF	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
姉妹都市交流事業の開催数			1回 (R元)	13回						4回 (R7)				
KPI	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
	国際交流を楽しみと感じた参加者の割合			-	-					75.0% (R7)				
<b>課題及び次年度の方向性</b>														
令和4年度は、シャバツ市との姉妹都市提携40周年、日本・セルビア友好140周年の節目を迎える。今まで培ってきた交流の歴史を礎に、今年度は、シャバツ市からの訪問団を招待し新たな交流を推進していく。また、東京2020大会のレガシーとして、ホストタウンとなったセルビア共和国の関連事業を実施を含め、既存事業と合わせてシャバツ市やセルビア共和国との交流の活性化を図っていく。														